

カリフォルニアの風（令和6年2月号）

「被災地を想う」

春の訪れを感じさせるあたたかな日が、カリフォルニアに差し込むようになりました。

令和6年元旦、家族が集まる時間に能登半島で大きな地震が起き、たくさんの方が被災されました。なかには、亡くなられた方がいらっしゃって、とても悲しく思います。被災者、関係者の方々のご苦勞を想うと悲しみが一層深くなります。

地震は現在の科学をもってしても未然に防ぎようがなく、時と場所を選びません。怖いな、と思っている矢先、私たちが住み通学する地域の真下に「活断層がある」という情報をいただきました。その情報は速やかにと考え、学校ウェブサイト「ハザードマップ」を掲載しておりますので、内容をご確認のうえ、次のことをご家庭で話題にいただければと思っています。

ご家族はいつも一緒に行動しているわけではありません。

そのため、いざというときの「家庭の約束事」を話し合っておくことが大切になります。

具体的には、「我が家の避難場所」とか、「どこに持ち出し品があるか」などです。

この機会に、地震発生後の対処の仕方、連絡の取り合い方、連絡を取り合えない時はどこへ向かうかなどを話し合っただけであればと思っています。私たち補習校もお子さん、ご家族のことが心配です。もしものときには、ご無事であるか連絡を取らせていただきます。

災害は忘れた頃にやってきます。自分の命は自分で守る、どんな状況であっても生きる、生き延びる、そして周りに困っている人がいれば、声をかけ、助け合うことを、私はしようと思っています。それは「命を大切にすること」は、「悲しむ人を減らす」ことになると思うからです。余力がある時には、周りの困っている方々に声をかけ、「誰かのために」のご協力をどうぞよろしくお願いします。

今月に入って、補習校の生徒たちが、能登半島地震で被災された方々を支援するため募金活動を「自発的に」行ってくれています。2月17日は、下校時の雨の中、募金箱を持って声をかけていました。その姿が目には焼き付いていて、その後の体調に異変がなかったか、じっとしてられない気持ちでいます。今週も元気に登校してくれていることを願っています。活動に、募金にご協力いただきました児童生徒の皆さん、並びに保護者の皆様に心よりお礼申し上げます。

ありがとうございました。

改めて被災地のことを想いますと、雨や雪の寒さの中、不安な生活が続いている情景が浮かんでいきます。

一日も早く、カリフォルニアと同じ春のあたたかな日が差し込むことを、ともに祈りたいです。